

共同研究奨励金助成グループ

「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味
— 『プランゲ文庫』を起点に考える」(2013年～2015年)

本共同研究は、「プランゲ文庫と東アジア」(2009年—2012年)の共同研究の第二期事業として継続するものである(以下、プランゲ文庫研究会と略称)。2014年に行われた研究会活動は以下の通りであった。

(一) 2014年4月16日(水) プランゲ文庫研究会の例会

◎日時: 2014年4月16日(水) 午後3時～

◎場所: 17号館 人文学研究所会議室

◎内容

- (1) 愛媛会議の報告(尹健次, 阿部浩己, 泉水英計, 孫安石)
- (2) 2014年度の活動計画— 国内外シンポ, 国内外の資料調査
- (3) 例会の日程— 報告者, 書籍刊行の件など
(尹健次, 大里浩秋, 阿部浩己, 泉水英計, 孫安石)

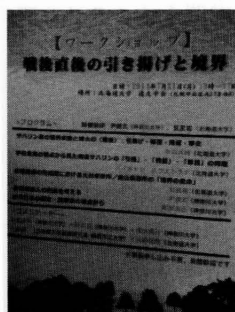
(二) 2014年7月21日, ワークショップ「戦後直後の引き揚げと境界」の開催

◎共催: 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院, 神奈川大学・プランゲ文庫研究会

◎日時: 2014年7月21日(月) 午後1時—午後5時

◎場所: 北海道大学 遠友学舎(札幌市北区北17条西8)

◎開催挨拶— 尹健次(神奈川大学), 玄武岩(北海道大学)



◎報告

- (1) 「学校教育の観点から見た戦後サハリンの『引揚』・『残留』・『移民』の問題」パイチャゼ・スヴェトラナ(北海道大学)
- (2) 「サハリン島の境界変動と樺太の〈戦後〉」中山大将(北海道大学)
- (3) 「大村収容所／釜山収容所の『境界の使命』」玄武岩(北海道大学)
- (4) 「在日朝鮮人の密航を考える」尹健次(神奈川大学)
- (5) 「近代日本の画定— 国際法の視点から」阿部浩己(神奈川大学)

◎コメンテーター

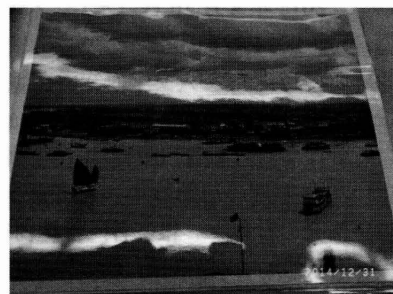
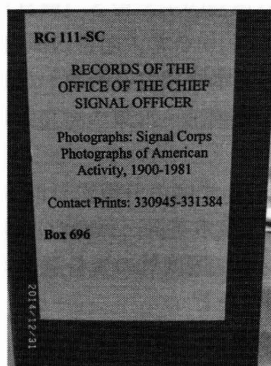
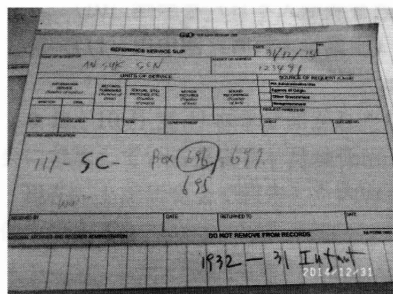
大里浩秋（神奈川大学）・元容鎮（立命館大学客員研究員・韓国西江大学教授）・天野尚樹（北大スラブ・ユーラシア研究センター）、孫安石（神奈川大学）・泉水英計（神奈川大学）

（三） 2015年12月25日—1月8日 アメリカの国立公文書館（NARA）の資料調査

◎日時：2015年12月25日—1月8日

◎場所：アメリカの国立公文書館（NARA）の資料調査

◎調査者：孫安石・小林聡明による調査



◎（RG111-Signal Corps の写真資料を閲覧，申請。Archivist の Eric 氏と Sharon 氏の協力をえる。戦後直後 1945 年 8 月—9 月 15 日の間の中国関連の航空写真が大量に現在していることを確認し，一部を蒐集した。

（四） 2015 年 3 月 5 日—8 日，福岡と対馬の資料調査（予定）

◎日時：2015 年 3 月 5 日—8 日

◎場所：福岡県立図書館，九州大学韓国学研究センターの訪問と書庫調査などを予定（尹健次，大里浩秋，阿部浩己，泉水英計，孫安石）

※本報告は共同研究グループ「プランゲ文庫研究会」の活動報告を兼ねる。

（文責 孫安石）